



若手経営者の役割

大阪市・第一工芸機代表取締役専務

綿谷 賢治

オープンした大阪ドームを筆頭に近未来への基盤が形成されつつある。当社も

つ全体のデザインや人にやさしい設計・工夫などは新世紀に最も求められる要素

いということになる。まず時代が今、何を求めているのかをいち早くつかみ、広

を増し、何よりも大切なこととされている。この意識を広告物に反映させ、より定着させるのが今の時代へ送り出す広告物に一番求められていることではないだろうか。今までのようにただ伝えるだけでは何も与えることができないし、本当

に伝えることはならない。数年間までの当社は企画・デザイン・制作までを一つの会社で行っていたが、昨今の時代の流れを考えるとそれは新しい何かが生まれてこないと考え、プランニングとデザインを専門とする別会社（株）オープンプランニングを設立した。これも新世紀を念頭に

をリードする要素を含んだ美しい広告物を世に送り出すことである。我々が製作するものは、ふだんは気にならないが、いつもどこにあるために記憶されるという潜在意識に訴求するものが主である。それだけに影響力が強い。

時代は今、何を求めているのか

であると思われる。

我々の業界は、広告という広く告げ、理解してもらうための方法として存在している。いわば時代をリードする仕事の一端を担っているのだが、我々の思想と時代の求める方向が一致していなくては、とても時代をリードすることは恐れ多

告物に反映させるという当たり前だが難しい。この二連の流れを理解することが肝要だと考える。

「人に優しく、しいては自然に優しい未来」という言葉を耳にするところになっ

た。三十から四十歳の若手経営者（後継者）は特に時代の要求を把握し、理解しなければならぬ。難しい局面に立たされているが、積み上げられた土台の上に新しい土を重ねていくことが、我々の世代の役割だと考えている。

大阪市内連や代理店より推薦を頂きこのプロジェクトに参加させていただいたが、デザイン・サイン・コンセプトなど随所にわたって新世紀を彷彿させる要素があり、大袈裟ではあるが時代の移り変わる瞬間を垣間見た気がする。特に、斬新で整ったシルエットを持

おいての展開である。つまり今時代が求めている思想に十二分に応えるためには、通り一辺の考えでは限界がきてしまっていくことである。

我々の世代が実行しているかなければならないことは、時代の求めているものを製作物に反映させ、社会

からを作り上げようとする新しい力である。この重要な「時代」に体当たりで望

みた。

二十一世紀まであと三百年。希望あふれる新世紀はすぐ目の前まで来ている。日本国内をはじめ世界各地でさまざまなプロジェクトが計画され、新世紀創造に余念がない。

当社は昭和四十四年の設立以来、大阪を拠点として地域社会の情報発信基地となるべく業務を展開している。この地でも三月一日に